

藤原慎也、ジャンルを超えてチャレンジ

トライアル最高峰の国際 A 級スーパークラスを戦う傍ら、KTM のサポートを受け、エンデューロ&クロスカントリーをはじめ、幅広くオフロード・モータースポーツにその楽しさを普及。

スピードを競わないほとんど唯一のモーターサイクル競技である、トライアル。それだけにライダーの表情を観察し、高度な技に酔いしれることのできる、最も選手に近いところで競技を楽しむことができるのも大きな魅力だ。KTM が唯一そのジャンルの商品を持たないオフロードスポーツのカテゴリーでもあるトライアルから、2016 年シーズンには新たにチャレンジするライダーを迎え入れる。IAS を戦いながら、トライアル競技の普及と、モーターサイクルスポーツ全般への注目度を高めようと意気込む、藤原慎也選手だ。

世界選手権にシングルランカーを送り込むなど、長年にわたって世界的に見ても高水準にある日本のトライアル。一方で国内では今一つ知名度が上がらないままマイナーなスポーツとして低迷し、幅広い競技人口や年齢層に支えられながらも注目度は低い。そんなトライアルを、媒体の力を使ってメジャーに押し上げ、将来に向かって競技人口を増やし、これをきっかけにオフロードモーターサイクルの世界をさらに魅力あるものに変えていきたいと意気込んでいるのが、2014 年の国際 A 級チャンピオン、2015 シーズンは IAS に挑戦を開始した藤原慎也選手だ。2016 年シーズンは KTM のサポートを受け、その活動をよりファンが多いオフロードスポーツに広げていく。

2015 年には地上波テレビバラエティ番組に「優しいヤンキー」として出演、驚くほどの視聴率を獲得し、これを契機に 2016 年初にもバラエティ番組への出演が決まるなど、その動きに注目が集まる藤原選手。さらにエンデューロやクロスカントリーに挑戦し、ライダーの中でのサポーターやファンを増やししながら、トライアルならではの技術、見せ場を持ち込んでいく考えだ。選んだのは KTM 250EXC と KTM FREERIDE350。コンペティションの場では 250EXC で走り、イベントやショーでは FREERIDE350 を使うことで、これまでどうしても「特殊な乗り物」としか見られなかったトライアルマシンへの見方を変え、トライアルライダーだからこそその技術、一般的なナンバー付のマシンで見せる楽しさを広げていこうという考えだ。競技の世界でも、日本ではさして多くなかったトライアル出身者によるエンデューロカテゴリーへの挑



【藤原 慎也選手】

<https://fujiwara-shinya-trial-1.amebaownd.com/>

全日本トライアル IAS #13

2016 年シーズンはマシンをスイッチする予定。IAS クラスでトライアルマシンを製造（輸入）するメーカーのサポート等を一切受けずに活動する異色の若手。旧習にとら

われず、閉ざされた世界ではなく幅広いお客様にその魅力を知っていただきたい、と東奔西走する。

2016 年は 2 シーズン目となる IAS クラスでの競技生活を中心としながら、広島県に本拠を置くオイルメーカーである広島高潤株式会社（代表・飯森直人、広島市南区宇品海岸 3-8-55-10、TEL082-255-0015）の社員として地元・兵庫県西脇市に「西脇営業所」を構え、商品開発と営業にも力を注いでいく。

KTM とのコラボレーションについて、藤原選手は「これまでになく大きく活動の幅を広げるチャンスだと思っています。トライアルの魅力はもちろん、バイクの楽しさを広げていく活動のきっかけにしていきたい。KTM のカッコよさと僕に集まっているいろんな意味での注目がうまく融合していけば、これまでになかったオフロードバイクの楽しさを演出できるはず」と意気込んでいる。

戦には、注目が集まっている。すでに世界レベルの、特にハードエンデューロと呼ばれるカテゴリーではトライアル出身者が圧倒的多数を占めるなか、日本のトライアルライダーとの技術交流が、オフロードライダー全体のテクニックの底上げと楽しみの醸成が、これまでのオフロードレースのファンを広げるきっかけになることさえも期待されているのだ。

藤原選手は、あくまでも競技生活の中心はトライアル。始まったばかりの全日本選手権最高峰クラスへの挑戦を続けながら、トライアルだけではないモータースポーツファンの獲得がその使命だ。KTM は藤原選手の活動と意気投合し、藤原選手のトライアル以外の活動を大きく支えていく予定。藤原選手としても、ハードウェアとしてナンバーワンであることが間違いない KTM を選びながら、その機械的な能力以上に、KTM ならではの楽しさの演出、ライダーサポート、お客様とのイベントづくりといった活動に注目してのコラボレーションになった。

2016 シーズンは、KTM のユーザー向けにトライアルをベースにしたテクニックを伝えていくようなプログラムも企画。単にレース参戦を超えた広いエリアでの KTM と藤原慎也選手との活動に、期待が高まっている。

なお、KTM による藤原選手の活動を支えるのは、藤原選手の地元にはほど近い KTM の専売店、オレンジショップ【KTM 神戸】だ。KTM 神戸はその豊かな KTM への知識を生かしながら藤原選手の活動を支え、マシンのメンテナンスはもちろん、イベントのサポートやスクールの展開などの支援も行っていく。

2016 年も話題づくりに注目が集まる KTM。あくまでもその視点はお客様にあり、お客様に楽しんでいただける、素晴らしいモータースポーツを広げることにあることには変わりがない。今後もその活動から目が離せない。



【KTM 250EXC】

藤原選手がトライアル以外の競技で主に使用する KTM が誇るエンデューロマシンのベストセラー。水冷 2 サイクル 249 cc のエンジンから絞り出される強烈なパワーと粘り強いトルクは、その驚くほど強靱、かつ軽量のボディと組み合わせられ、条件が厳しいときほどライダーの強い味方となる。



【KTM FREERIDE 350】

藤原選手がショーをはじめ、イベントやスクールなどでも使用する、KTM ならではのマルチ・オフローダー。エンデューロマシンでもなければトライアルマシンでもない、全く専用のオリジナルフレームに、KTM だけが持つ 350 cc のタフで軽量のエンジンを搭載。保安部品を付けても 100 kg に満たない軽量のボディは、藤原選手の手で羽が生えたかのように舞うことが期待される。トライアルマシンだけを使った「特殊な乗り物による」ショーではなく、だれにでも日常的に楽しめるマシンならではの楽しみを是非、ご覧いただきたい。

メディア関係者各位

この件に関するお問い合わせ： KTM JAPAN 株式会社 担当：野口

* オフィシャルフォトの提供も可能です。併せてご連絡いただけるようお待ちしております。

〒135-0063 東京都江東区有明 3-5-7 TOC 有明 2F

TEL: 03-3527-8885 FAX: 03-3527-8890 HP: <http://www.ktm-japan.co.jp/>